DC241.
11
79M11971

0021884000

0021884-000

DC241－11

新嘉坡情報

東亜経済調査局弘報課

経済

〔1937〕

ADC

DC241
11

目次

一、一九三七年一月馬來亞對外貿易情況　一二、三、二〇
一、一九三六年度馬來亞經濟委態　一二、四、一
一、軍需工業用イルミナイト　一二、四、二五
一、一九三七年三月馬來亞輸出入貿易統計　一二、四、二八
一、馬來亞景氣動態の近況、附二月貿易概要　一二、四、一五
一、本年下半期馬來亞織物輸入許可量　一二、五、二六
一、一九三七年四月に於ける馬來の對外貿易（統計局五月二十七日發表）

書
國會圖
54.3.20
書籍館藏圖

79W11971

（統計同五月二十七日號續）

目次

一、一九三七年四月份に於ける錫の輸入高 一二、五、二六
一、本年下半期錫入荷可能量 一二、四、一五
一、錫買附資金の融通に關する件 一二、四、一八
一、一九三七年三月末錫出入貿易狀況 一二、四、二五
一、車輛工業用トシテノ錫 一二、四、一
一、一九三六年度海峽錫輸入高 一二、四、一五
一、一九三七年一月末錫地金在庫高 一二、三、二〇
一、四月中馬來ゴム市況 一二、六、二二
一、四月中馬來錫市況 一二、六、二〇
一、一九三六年度海峽植民地歲出入 一二、六、二〇
一、一九三六年度馬來の米輸入額 一二、六、二〇
一、馬來亞聯邦州政府屑鐵輸出禁止 一二、六、一五
一、護謨價慘跌の原因 一二、六、二〇
一、護謨價慘落中に於ける米國の消費量 一二、六、二〇
一、前年度來よりの世界錫消費量の增加 一二、六、二一
一、護謨に關するアムステルダム消息 一二、六、二三
一、新嘉坡市の財政狀態 一二、六、二四

79M11971

一、蘭領印度の市況概況　一二、六、二四
一、蘭領に關するアムステルダム商況　一二、六、二三
一、前半度來一九三七年世界綿業會議の生産量の割當　一二、六、二一
一、蘭領印度中部ジャワ米の輸出入　一二、六、二〇
一、蘭領印度の米輸入關稅引上　一二、六、二〇
一、蘭來亞細亞政府錫鑛輸出禁止　一二、六、一五
一、一九三六年度蘭來の米輸入額　一二、六、二〇
一、一九三六年度蘭來貿易概況　一二、六、二〇
一、四月中蘭來ヒル市況　一二、六、二〇
一、四月中蘭來ヒル市況　一二、六、二二
一、一九三七年度下半期織物割當　一二、六、二八
一、馬來亞聯邦州錫採鑛禁止令撤廢　一二、六、二八
一、日本綿製品の割當破りと其方法　一二、七、七
一、鐵に關して　一二、七、五
一、五月の馬來亞對外貿易激減　一二、六、三〇
一、最近七年間に於ける爪哇糖業の大様　一二、七、一五
一、馬來亞聯邦州屑鐵輸出禁止令解除　一二、七、一三
一、一九三六年英領馬來亞並サラワクに於ける綿布、人絹布、輸入割當令の實施及其影響に關する政府の年次報告書　一二、七、一三

一、一九三七年六月馬來亞對外貿易 一二、七、二七
一、煙草稅法の修正 一二、九、一八
一、一九三七年八月馬來亞對外貿易 一二、一〇、二七
一、一九三七年九月二十七日フリーブレス紙 一二、九、三〇
一、織物輸入割當改正案に關して 一二、一〇、七
一、排日貨の影響 一二、一〇、一九
一、華僑商社の在庫邦品處分問題 一二、一〇、三〇
一、一九三七年九月馬來亞對外貿易統計 一二、一一、六
一、馬來亞ー香港間航空路の變更 一二、一一、一九
一、織物輸入商社別當法案撤回
一、英領馬來亞輸入綿布の半大部分を占むる印度綿布 一二、七、一三
一、一九三六年英領馬來亞並ニ「ウロツ」に於ける日本綿布輸入額、本額の實質的及其增減 一二、七、一五
一、綿業の大勢 一二、七、二八
一、英領馬來亞輸出綿布に對する日本綿業組合の對策 一二、八、一五
一、英領馬來亞輸出綿布に對する日本綿業組合の對策 一二、八、二八
一、英領馬來亞輸出綿布に對する日本綿業組合の對策 一二、九、一五
一、英領馬來亞輸出綿布に對する日本綿業組合の對策 一二、九、二八
一、英領馬來亞輸出綿布に對する日本綿業組合の對策 一二、一〇、一五
一、英領馬來亞輸出綿布に對する日本綿業組合の對策 一二、一〇、二八
一、英領馬來亞輸出綿布に對する日本綿業組合の對策 一二、一一、一五
一、英領馬來亞輸出綿布に對する日本綿業組合の對策 一二、一一、二八
一、英領馬來亞輸出綿布に對する日本綿業組合の對策 一二、一二、一五
一、英領馬來亞輸出綿布に對する日本綿業組合の對策 一二、一二、二八

一、織物輸入關稅問題 …… 一一、一
一、東愛の海空航間運賃 …… 一一、一九
一、一九三七年度第一四半期馬來亞對外貿易狀況 …… 一二、一〇、三〇
一、關稅分類品目の新商標 …… 一二、一〇、一九
一、日貨の濠洲 …… 一二、一〇、七
一、「ゴム」關稅案に關して …… 一二、九、三〇
一、一九三七年度十二月馬來亞對外貿易 …… 一二、一〇、二七
一、一九三八年度第一四半期馬來亞對外貿易狀況 …… 一二、一〇、一八
一、一九三八年度第二四半期馬來亞對外貿易狀況 …… 一二、一一、二七
一、織物關稅改正案決定 …… 一二、九、二三
一、綿、人絹既製品に對する關稅コント …… 一二、一一、一七
一、一九三七年度上半期世界錫消費量決定 …… 一二、一一、三〇
一、英國產業博覽會と馬來亞織物問題 …… 一二、一二、三一
一、一九三八年度第一、四半期の錫生產割當 …… 一二、一、五
一、ジョホール州下ゴム園苦力に關して …… 一二、一二、一
一、一九三七年十月馬來亞對外貿易 …… 一二、一一、二七
一、一九三八年度馬來亞織物輸入數量確定 …… 一二、一一、二九
一、一九三八年度ゴム生產割當切下問題 …… 一二、一二、一

一、一九三八年度第二四半期護謨割當決定　一三、一二六
一、一九三七年十二月馬來亞對外貿易　一三、一二七
一、北支事變に因る最初の邦品ボイコット　一二、八、八
一、和蘭、蘭領東印度間の交通發達小史　一二、七、一八
一、蘭領東印度砂糖輸出統計　一二二、二三
一、輸出稅附加徵收

一、一九三八年度第二四半期護謨割當決定　一二、一二、一
一、一九三七年十二月馬來亞對外貿易　一二、一一、二九
一、一九三七年十月馬來亞對外貿易　一二、一一、二七
一、ビルマ米の印度輸出　一二、一一、五
一、「ビルマ」米の印度輸出　一二、一一、一
一、ベトナム米の印度輸出　一二、一一、一
一、英國產業團體會議と馬來護謨問題　一二、一二、一一
一、一九三七年度第三四半期馬來亞對外貿易　一二、一二、一〇
一、蘭印入超品に對する輸入制限　一二、一二、八
一、蘭印砂糖五萬噸輸入決定　一二、一二、七
一、一九三七年度第三四半期護謨割當決定　一二、一二、三

一、	濠田貿易概況	一一、一一、 一
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、一七
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、二九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、三九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、四九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、五九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、六九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、七九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、八九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、九九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、一〇九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、一一九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、一二九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、一三九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、一四九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、一五九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、一六九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、一七九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、一八九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、一九九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、二〇九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、二一九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、二二九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、二三九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、二四九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、二五九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、二六九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、二七九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、二八九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、二九九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、三〇九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、三一九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、三二九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、三三九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、三四九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、三五九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、三六九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、三七九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、三八九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、三九九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、四〇九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、四一九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、四二九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、四三九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、四四九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、四五九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、四六九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、四七九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、四八九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、四九九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、五〇九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、五一九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、五二九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、五三九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、五四九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、五五九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、五六九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、五七九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、五八九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、五九九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、六〇九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、六一九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、六二九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、六三九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、六四九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、六五九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、六六九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、六七九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、六八九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、六九九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、七〇九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、七一九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、七二九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、七三九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、七四九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、七五九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、七六九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、七七九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、七八九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、七九九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、八〇九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、八一九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、八二九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、八三九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、八四九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、八五九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、八六九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、八七九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、八八九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、八九九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、九〇九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、九一九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、九二九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、九三九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、九四九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、九五九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、九六九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、九七九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、九八九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、九九九
一、	濠洲貿易界に於ける日本の地位	一一、一一、一〇〇九

P-11-b

貿易局 2 完

東亞經濟調査局 弘報課

南洋情報

昭和十六年廿日

入輸				に	弗	、	馬來	貿易	期末	馬來
			前	し	、	即	亞	界	よ	亞
一一一一	一一一一	年	度	て	出	ち	貿	に	り	蹺
九九三三	三三三三	一	超	出	の	輸	易	活	亞	一
三三六七	六七八六	月	入	の	超	入	の	況	ゴ	九
七六年年	年年年年	及	額	甚	五	の	最	を	ム	三
一一一一	十十十十	十	千	高	見	四	高	見	及	七
月月月月	月月月月	二	四	を	る	百	記	る	錫	年
		月	百	見	。	十	錄	に	の	一
		と	十			四	を	至	好	月
		比	四			萬	破	り	轉	馬
五四	四五	較	萬			四	り	そ	を	來
四八	四四	す	四			千	輸	の	示	亞
一一	一一	れ	千			弗	出	貿	し	の
四五	四四	ば	弗			、	入	易	、	對
四、	四、		、			輸	總	總	發	外
〇〇	〇〇		〇			出	額	額	表	貿
〇〇	〇〇		〇			一	一	一	の	易
〇〇	〇〇		〇			六	千	九	商	概
〇〇	〇〇	弗	〇			億	一	一	業	況
						千	一	九	興	
						四	千	三	信	
						百	八	〇	所	
五	二		二、			二	百	年	調	
三	二		二			十	四	五	査	
九	四		四			九	十	月	部	
三、	七、		七、			萬	二	末	調	
〇〇	〇〇		〇			五	萬	現	査	
〇〇	〇〇		〇			千	九	在	課	
〇	〇	弗	〇			弗	千	高	調	
增	增		增			增	九	一	査	
加	加		加			加	百	億	課	
							弗	弗	調	
							增	增	査	
							加	加	課	

一、昨年一月中船腹不足に因るゴムの滯荷（シンガポール渋倉庫在荷）一萬二千噸に及べり。

次に輸出入を類別すれば

輸入

一、獸類、食糧、飲料、煙草。

輸出國名	總額
英國	二、〇三四、〇〇〇弗
英領及各保護國	三、二二四、〇〇〇
歐洲各國	六一二、〇〇〇
米國	八七、〇〇〇
日本	五三六、〇〇〇
蘭領東印度	一、九一〇、〇〇〇
其他各國	一四、八一二、〇〇〇
合計	一三、二一四、〇〇〇

輸出國名	一九三六年十二月	一九三六年一月
	二、原料及未製品	
英國	一三、九〇〇、〇〇〇	二一、六七三、〇〇〇
英領及各保護國	四、八七四、〇〇〇	六、七五五、〇〇〇
歐洲各國	九〇〇、〇〇〇	一三、九一三、〇〇〇
米國	二〇、〇〇〇、〇〇〇	一七、七六五、〇〇〇
日本	一二、九〇〇、〇〇〇	一九、三六一、〇〇〇
蘭領東印度	八、四三二、〇〇〇	一〇、八三二、〇〇〇
其他各國	六、七五五、〇〇〇	一〇、八三二、〇〇〇
合計	二〇、二五三、〇〇〇	二七、〇四一、〇〇〇
一九三六年十二月	一三、九一三、〇〇〇	一七、七六五、〇〇〇
一九三六年一月	一七、七六五、〇〇〇	二一、六七三、〇〇〇

三、既製品

輸出國名	總額	弗
英國	五、〇五九、〇〇〇	
英領及各保護國	一、五三八、〇〇〇	
歐洲各國	一、七一〇、〇〇〇	
米國	六〇〇、〇〇〇	
日本	二、八四五、〇〇〇	
蘭領東印度	七、〇七二、〇〇〇	
其他各國	一、一五〇、〇〇〇	
合計	一九、九七四、〇〇〇	
一九三六年十二月	一九、五〇六、〇〇〇	
一九三六年一月	一七、七九四、〇〇〇	
四、郵便小包によるもの		
一九三七年一月	四七、〇〇〇	

一九三六年十二月	四六九、〇〇〇
一九三六年一月	三二九、〇〇〇

五、銀盾及金銀

輸出國別、名目別總額

國別	弗
英國	四六、〇〇〇
英領及各保護國	一三六、〇〇〇
歐洲各國	一五〇、〇〇〇
其他各國	二三、〇〇〇
合計	九六、〇〇〇
一九三六年十二月	三三六、〇〇〇
一九三六年一月	三三六、〇〇〇

輸出

昨秋期末より活況を呈し來れる馬來亞輸出貿易は俄然今年一月輸出總額六千四百二十九萬五千弗を見るに至つて一九三六年十二月

の五千九百五十萬一千弗より超過四百萬弗餘となり亦一九三六年一月の四千六百十七萬七千弗に比較して實に一千八百萬弗餘の增加を示した。

一、獸類、食料、飲料、煙草

仕向地	總額 弗
英國	九九〇、〇〇〇
英領及保護國	二、三八〇、〇〇〇
歐洲各國	一〇六、〇〇〇
米國	一一〇、〇〇〇
日本	二〇、〇〇〇
蘭領東印度	一、六二三、〇〇〇
其他各國	四七一、〇〇〇
合計	五、七〇〇、〇〇〇
一九三六年十二月	五、〇九八、〇〇〇
一九三七年一月	三、二〇六、〇〇〇

二、原料及未製品

一九三六年一月	仕向地	總額 弗
	英國	三、三五〇、〇〇〇
	英領及保護國	一、五四六、〇〇〇
	歐洲各國	九九六、〇〇〇
	米國	一七、八七〇、〇〇〇
	日本	三、三〇四、〇〇〇
	蘭領東印度	一一、三〇〇、〇〇〇
	其他	一、三六八、〇〇〇
	合計	三七、五三五、〇〇〇
一九三六年十二月		三二、一一二、〇〇〇
一九三六年一月		二三、三一六、〇〇〇

三、既製品

仕向地		一九三六年十一月	一九三六年一月	一九三七年一月
英國	數額	一、一六三、〇〇〇	一、一六三、〇〇〇	一、一六三、〇〇〇
	價額	四一九、〇〇〇	四一九、〇〇〇	四一九、〇〇〇
英領及保護國	數額	三、六三八、〇〇〇	三、六三八、〇〇〇	三、六三八、〇〇〇
	價額	一、六三四、〇〇〇	一、六三四、〇〇〇	一、六三四、〇〇〇
歐洲各國	數額	一、二八六、〇〇〇	一、二八六、〇〇〇	一、二八六、〇〇〇
	價額	一、〇五五、〇〇〇	一、〇五五、〇〇〇	一、〇五五、〇〇〇
米國	數額	一、〇七六、〇〇〇	一、〇七六、〇〇〇	一、〇七六、〇〇〇
	價額	一、〇七六、〇〇〇	一、〇七六、〇〇〇	一、〇七六、〇〇〇
日本	數額	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇
	價額	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇
蘭領東印度	數額	一、〇七六、〇〇〇	一、〇七六、〇〇〇	一、〇七六、〇〇〇
	價額	一、〇七六、〇〇〇	一、〇七六、〇〇〇	一、〇七六、〇〇〇
其他	數額	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇
	價額	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇
合計	數額	二〇、五一四、〇〇〇	二一、六三二、〇〇〇	一六、三〇〇、〇〇〇
	價額	一〇、七四〇、〇〇〇	一二、三七三、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

四、郵便小包によるもの

	一九三七年一月
數額	
價額	

	一九三六年十二月	一九三六年一月
五、銀盾及銀塊		
仕向地		
英國	一八〇、〇〇〇	一六二、〇〇〇
英領及保護國	一〇五、〇〇〇	一、〇〇〇
蘭領東印度		
其他		
合計	一八〇、〇〇〇	一六三、〇〇〇
	一九三六年十二月	一九三六年一月
	二三四、〇〇〇	二、〇〇〇
	二三、〇〇〇	二三、〇〇〇
	一〇三、〇〇〇	
	二三、〇〇〇	
	三八、〇〇〇	
	四七九、〇〇〇	
	六七三、〇〇〇	

（單位　額面弗）

以上の數字によつて見るも一九三七年一月馬來亞對外貿易は一千〇十五萬一千弗の出超を示したゝ、昨一九三六年下四半期頃迄日本製

品の入超により日本品に對して種々の箝動と重壓が加へられつゝあつた處、十二月以降より日本向輸出の激增により日本商品に對する怨嗟の聲も平靜に歸す。

於シンガポール

鄕間正平

P-11-D

南情第　號

南洋情報

一九三六年度馬來亞經濟委態

昭和拾貳年四月壹日

一九三六年度馬來亞は常に國際景氣の衰頽に支配され、國際的經濟の一環をなす馬來亞經濟委態一九一四年以來一九二三年前後に渉る歐洲大戰時の好況に惠まれたるも、一九二五年より急轉直下錫及ゴム價の暴落に極めて不安の中に在りたるも、一九三三年度の最惡を終りとして、一九三四年度下半期より漸次蘇の一途を辿り遂に一九三六年に至り完全に新生的段階に轉入した。

一九三六年度馬來亞貿易總額は十一億五千二百萬弗に達し、これを前年度に比して八千九百萬弗の增加であり、その輸入に於て三千四百萬弗、輸出に於いて五千五百萬弗である。この增加の現象は物價高によるばかりでなく、實質的に一般經濟界の回復の結果市場の活況を見るに至つたのである。

錫、ゴムに限られた偏重産業地馬來亞はその慘落期間中長い冬枯れに在つたが、昨年秋よりの漸次價格の上昇に連れ若干の繁榮が馬來亞全體的に招來された。

新嘉坡港の出入船舶は一九三五年度に比し一九三六年度は八十五度の減少であつたにも拘らずその輸入貨物は七萬七千噸の增加、輸出四千噸の減少である。石炭の輸入に於て四萬四千噸減少したが、その輸出は反對に二萬三千噸の增加を示した。燃料油の輸入增加一萬六千噸、輸出八千噸の減少である。

錫

錫價はロンドンに於て一九三六年上半期に比して下半期終末二十五磅十志〇片高であつた。シンガポール（ローカル市場）に於いては、上半期一ピコル百〇二弗二十五仙、五日より七日初旬八十弗台に暴落したるも下半期未に至り一日十八弗二十五仙と漸次上昇を見た。その下半期に於ける錫のビジブル供給は七千四百噸の增加を示

し、スト・ライキ賃銀の増加されたのである。

（一九三七年現在相場一ドル＝一弗五十仙内外）

ガポール、ビルマ百三十七弗五十仙（一弗＝一円三五銭）

コメ　一九三六年度馬來亞總輸出高二〇一七噸、一九三五年度の五九〇三噸に比して六四一噸の減少であるが乾燥ゴムの輸入は一キロ四二噸に比して一四一噸の増加を示し、三十五年度の一〇六噸に比して六八噸の増加を示したが、三十六年度の現在は現物二十仙八分三厘に開け、三十七仙八分五厘、最低二十二仙四分一厘であつた、

ココヤシ

一九三七年三月現在四十仙八分一厘、最高三十九仙八分一厘で閉ぢ、ココヤシ油は現物の減少であるが乾燥ゴムの輸入は一キロ四二噸に比して六八噸の増加を示したが、三十五年度の一〇六噸に比して一四一噸の増加を示したが、三十六年度の現在は現物二十仙八分三厘に開け、三十七仙八分五厘、最低二十二仙四分一厘であつた、

ゴム

一九三六年度馬來亞總輸出高二〇一七噸、一九三五年度の五九〇三噸に比して六四一噸の減少であるが乾燥ゴムの輸入は一キロ四二噸に比して一四一噸の増加を示したが、三十五年度の一〇六噸に比して六八噸の増加を示したが、三十六年度の現在は現物二十仙八分三厘に開け、三十七仙八分五厘、最低二十二仙四分一厘であつた、

ガポール、ビルマ百三十七弗五十仙（一弗＝一円三五銭）

コメ

一九三七年三月現在四十仙内外（一弗＝一円三五銭）

ガポール、ビルマ百三十七弗五十仙（一弗＝一円三五銭）

（一九三七年三月現在相場一ドル＝一弗五十仙内外）

に増加されたのである。

ココヤシ油は原料ココヤシ實の減收により、スト・ライキ賃銀の増加も相當値段に

なお。

なのである。

ゴム相場は一九三七年本期に入つてから非常な變動を示したが、これは主として米國の景氣變動に伴ふ投機的氣分の變化によるものである。

即ち一九三七年本期に入つてから米國の景氣は著しく好轉し、これに伴ふ自動車工業の活況は、ゴムの需要を激増せしめ、ゴム相場は暴騰するに至つたのである。

然るに一九三七年五月に入つてから米國の景氣は急激に後退し、ゴム相場も亦暴落するに至つたのである。

ゴム相場の變動は、一九三七年本期に入つてから非常な變動を示したが、これは主として米國の景氣變動に伴ふ投機的氣分の變化によるものである。

即ち一九三七年本期に入つてから米國の景氣は著しく好轉し、これに伴ふ自動車工業の活況は、ゴムの需要を激増せしめ、ゴム相場は暴騰するに至つたのである。

然るに一九三七年五月に入つてから米國の景氣は急激に後退し、ゴム相場も亦暴落するに至つたのである。

価格は上半期下期に於いてピコル五弗二十五仙が、下半期末に至つて十弗三十仙に漸昇を來した。

サゴ粉

各國に於ける需要の増加と共に馬來亞サゴ粉の輸出も増加を續けて居り、上半期一ピコル、シンガポール渡し二弗三十仙、下半期末三弗三十仙に高昇

（これはその大部分新嘉坡に接近せる蘭領の小島各地の産なるもシンガポール商人の手に集められて輸出される爲め馬來亞産となつてゐる）

胡椒

一九三六年度は輸出減少であつたこれは歐洲に於けるストック過剰の爲めであつた。下半期に至つて若干の活氣が見られ、モント白胡椒十月中十五弗五十仙が十二月には二十一弗二十五仙となり、黑胡椒も八弗より十二弗となつたが未だ充分の恢復とは云はれなかつた。

東亞經濟調査局彙報　第十卷　第十號

に無き不順に累されて、買手澁りとなつて一般商人のオーバー・ストックの如何に多かつたかは、下四半期に於ける馬來亞よりの船送高激減によつて明かである、卽ち此期間の船送高十九萬五千函、前年同期の三十二萬三千函に比し大減少を示し、この爲めに市場のコンヂションは一九三五年に比較し著しく軟弱で平均價格も五%の低下であつた。

(一)一九三六年及一九三五年度新嘉坡及馬來亞輸出(土貨)

種目	新嘉坡 一九三五年	新嘉坡 一九三六年	馬來亞 一九三五年	馬來亞 一九三六年
コプラ	一二〇、二三四	一一八、五六四	二一七、三三〇	一九六、四三四
サゴ粉	六四、九〇二	七〇、九九六	六四、九四一	七〇、九九六
黑胡椒	九、一九二	三、二九六	九、三一〇	三、三八五
白胡椒	一二、八四九	七、一九三	一二、八六八	七、一九五
椰子油	一八、〇四五	二一、四七八	二四、七四六	二九、四三七

年同期の三十二萬三千函に比し大減少を示し、この爲めに市場のコンヂションは一九三五年に比較し著しく軟弱で平均價格も五%の低下であつた。

(一)一九三六年及一九三五年度新嘉坡及馬來亞輸出(土貨)

種目	新嘉坡 一九三五年	新嘉坡 一九三六年	馬來亞 一九三五年	馬來亞 一九三六年
コプラ	一二〇、二三四	一一八、五六四	二一七、三三〇	一九六、四三四
サゴ粉	六四、九〇二	七〇、九九六	六四、九四一	七〇、九九六
黑胡椒	九、一九二	三、二九六	九、三一〇	三、三八五
白胡椒	一二、八四九	七、一九三	一二、八六八	七、一九五
椰子油	一八、〇四五	二一、四七八	二四、七四六	二九、四三七

染織物	日本	一九三一年	一八、四四〇、〇〇〇	一九三二年	一、〇一〇、〇〇〇
綿織物		一九三二年	一九、八八〇、〇〇〇		一、一〇〇、〇〇〇
染織布			一八、四四〇、〇〇〇		一、〇一〇、〇〇〇
綿織物	蘭領印度		一、〇〇〇、〇〇〇		一、〇〇〇、〇〇〇
染織布			一、〇〇〇、〇〇〇		一、〇〇〇、〇〇〇
綿織物	英領馬來		一、〇〇〇、〇〇〇		一、〇〇〇、〇〇〇
染織布			一、〇〇〇、〇〇〇		一、〇〇〇、〇〇〇
綿織物	佛領印度支那		一、〇〇〇、〇〇〇		一、〇〇〇、〇〇〇
染織布			一、〇〇〇、〇〇〇		一、〇〇〇、〇〇〇
綿織物	暹羅		一、〇〇〇、〇〇〇		一、〇〇〇、〇〇〇
染織布			一、〇〇〇、〇〇〇		一、〇〇〇、〇〇〇
綿織物	菲律賓		一、〇〇〇、〇〇〇		一、〇〇〇、〇〇〇
染織布			一、〇〇〇、〇〇〇		一、〇〇

| | | |

月	輸入統計												輸出											
十一月	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	九	一	八	二	七	一	六	一	五	一	四	一
十二月	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	四	一	五	一	四	一	三	一	二	一	一	一
一九一三年度月別輸出入													輸出											
五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八

	輸出	輸入	總計	出超	入超
十一月	五八、四〇〇、〇〇〇弗	五四、六〇〇、〇〇〇弗	一一三、〇〇〇、〇〇〇弗	四、〇〇〇、〇〇〇弗	
十二月	五一、〇〇〇、〇〇〇	四七、六〇〇、〇〇〇	九八、六〇〇、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇	
合計	六三九、二二〇、〇〇〇	五一二、九三〇、〇〇〇	一、一五二、一五〇、〇〇〇	一二六、二九〇、〇〇〇	
輸出入總計	一、三六二、三四〇、〇〇〇				

最近十年對外貿易比較（單位百萬弗）

年度	輸出	輸入	總計	出超	入超
一九二六年	一、二七三・五	一、〇五〇・一	二、三二三・六	二三三・四	
一九二七年	一、〇六八・七	一、〇一七・八	二、〇八六・五	五〇・九	
一九二八年	八五二・〇	八七九・〇	一、七三一・〇		入超二七・五
一九二九年	九三一・一	八七八・六	一、八二九・七		入超三二・五
一九三〇年	六七一・二	七一六・一	一、三八七・三		入超四四・九
一九三一年	四二九・八	四五七・六	八八七・四		入超二七・八
一九三二年	三六七・六	三八四・三	七五一・九		入超二六・七
一九三三年	四〇二・六	三六二・一	七六四・七		四〇・五

一九三四年	五六六七	四六七・一	一、〇三三・八	九九・六	三六二・一	四大四・七	四〇二・六	一九三四年	四〇二・六	四大四・七	三六二・一
一九三五年	五八二・〇	四八二・五	一、〇三三・八	一〇六・五	三八四・三	五一五・八	四二六・七	一九三五年	四二六・八	五一五・八	三八四・三
一九三六年	六三九・二	五一二・九	一、一五二・一	一二六・三	四五〇・六	六一二・四	五二〇・五	一九三六年	五二〇・五	六一二・四	四五〇・六
								一九三七年	六三九・二	七二四・六	五一〇・一
								一九三八年	七五八・一	八三五・〇	六〇一・八
								一九三九年	八五八・一	九四〇・〇	六八九・五
								一九四〇年	九六〇・〇	一、〇四〇・〇	七〇〇・〇
								一九四一年	一、〇六〇・〇	一、一五〇・〇	七一五・〇
								一九四二年	一、一五〇・〇	一、二五〇・〇	七一五・〇

前列の數字によつて一見明かなる如く、一九三二年及一九三三年を底として漸次恢復の一途を辿り、一九三六年度下四半期に至り馬來亞繁榮の曙光が見られたのであつた。一九三七年下半期に至れば世界的準戰時活況に惠まれるであらう。

世界的準備品目に含まれるやうになつた。

一九三六年 一九三五年 一九三四年

六三、三 五八、二 五六、七

五一、二 四八、二 四六、一

一、一五二、一 一、〇三三、八 一、〇三三、八

一二、六 一〇、五 九、六

馬來亞産業二大宗の一たるゴムは一九二九年以來實に八年間の長き價格慘落の悲況の中に在つたが、一九三六年度十月より上昇の一途を續け來れる爲め、四半期に於て業界は漸く愁眉を開くに至つた。

一九三六年度總産額三十六萬五千〇〇五噸、輸出總額五十二萬百十七噸、前年度の五十九萬〇三百十九噸に比して七萬〇百四十二噸の減退である。

一九三六年各月別輸出統計を示せば

	一九三六年累計	一九三五年累計
一月	三九、一〇一噸	五六、七二〇
二月	三八、四三六	七七、五七三
三月	四六、五五二	一〇七、一一〇
四月	三六、二五一	一二四、〇八九
五月	四六、五六八	一五四、五一七
六月	四〇、〇四九	一四六、九五七
	三〇八、九八〇	

四三二一月　四三二一月　十九八七

月月月月別　月月月月別　十十十十

（港より輸出されるゴム）　（入移護謨）

一一一一八、二、一一　一一一一八、二、一一

四二〇八五八二順　四二〇八五八二順

一一一九三六年　一一一九三六年

（羅甸半島及ビルマ）　（羅甸半島其他）

一一一一一、〇、一一　一一一一一、〇、一一

六、四〇三、四九七、一　六、四〇三、四九七、一

二三七四五二順　二三七四五二順

九七六八年　九七六八年

（シンガポール）

月	片	仙	仙
四月	七二分一	一五七分八	二六三分八
五月	七二分四	一五九分十五	二五二分一
六月	七七分十六	一六〇ノ〇	二六二分四
七月	七十一分十六	一六三分八	二六二分八
八月	七五分八	一六二分四	二六五分八
九月	七三分四	一六三分八	二七二分八
十月	七〇ノ〇	一六五分八	二八二分八
十一月	八十三分十六	一八二分一	三一三分八
十二月	九十五分十六	二〇三分八	三四二分一

一九三六年度は制産限と輸出許可割當（六七%五）等の影響により、年度末の値上りにも不拘、輸出量の減退を見た。尚一つの原因と見られるもの一般的船舶の不足に加ふるに米國太平洋沿岸に於ける海員のストライキにもよる。

（附記）

月			
三月	七十分十六	一五三分四	二六〇〇
二月	七三分八	一五五分八	三四分八
一月	六十五分八十六	一四十三分十六	二四分八
一九三六年平均			
合計			
十二月			
十一月			
十月			
九月			
八月			
七月			
六月			
五月			

（續）

十二月六日	十七分の一	一、八〇	一、八〇	一、八〇	二、〇三	三四、二〇	三、六八	三、六八	三、六八	三、六八	三、六八
十一月十三日	十八分の一	一、八〇	一、八〇	一、八〇	二、〇三	三一、三〇	三、六八	三、六八	三、六八	三、六八	三、六八
十月七日	二〇分の一	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、八〇	二八、二〇	三、二四	三、二四	三、二四	三、二四	三、二四
九月三日	二〇分の一	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、八〇	二七、〇〇	三、二四	三、二四	三、二四	三、二四	三、二四
八月五日	二〇分の一	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、八〇	二六、二〇	三、二四	三、二四	三、二四	三、二四	三、二四
七月十一日	二〇分の一	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、八〇	二六、〇〇	三、二四	三、二四	三、二四	三、二四	三、二四
六月十六日	二〇分の一	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、八〇	二五、二〇	三、二四	三、二四	三、二四	三、二四	三、二四
五月二日	二〇分の一	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、八〇	二五、二〇	三、二四	三、二四	三、二四	三、二四	三、二四
四月一日	二〇分の一	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、八〇	二五、二〇	三、二四	三、二四	三、二四	三、二四	三、二四

（前號）

一九三六年度米國消費高六十萬噸（一九三七年）に入り五%の增加が與へられ、既に四十仙突破の高騰を示現し、これによつて經濟好景氣來臨疑ひなしと觀測されてゐる。

一九三七年度上半期の輸出許可量比較を見れば、

	一九三六年第四四半期各月供給量六五%	一九三七年第一四半期各月供給量七五%	一九三七年第二四半期各月供給量八〇%
馬來亞	三〇、八二〇	三六、八一二	三九、二六七
蘭領東印度	二七、〇八三	三二、五〇〇	三四、六六七
錫蘭	四、三三三	五、〇六二	五、四〇〇
印度	六七七	七八二	八三三
緬甸	四六〇	五六三	六〇〇

一九三七年度上半期の輸出割當許可も昨年十月廿七日の國際ゴム統制委員會議に於て八五%を決議されたが、更に本年度（一九三七年）に入り五%の增加が與へられ、既に四十仙突破の高騰を示現し、これによつて經濟好景氣來臨疑ひなしと觀測されてゐる。

一九三六年度下半期及一九三七年度上半期の輸出許可量比較を見れば、

北ボルネオ	七五九				
サラワック	一、六二五	一、九六九	二、一〇〇		
	六五、七五七	七八、六五六	八三、九〇〇		
邏羅	二、八三三	二、八三三	二、八三三	一、〇三三	
佛領印度支那	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	△ 三、〇〇〇	
其他	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	△ 二、〇〇〇	
世界供給總量	七三、五九〇	八六、四八九	△九一、七三三		

（△ 推定數量）

一九三六年度第四四半期に於ける馬來亞の割當供給量は各月三萬一餘噸なりしも、一九三七年度上半期三萬六千噸より三萬九千噸となり、更に下半期增額となる。供給過剩の虞れなしとは云はれない。米國に於ける消費豫想量の增加と世界的準戰時景氣は、その虞れをケシ飛ばしてゴムのブーム時代が現出されんとしてある。

（勿論識者はそのブームの後に來るものに對して警告してゐる）

錫。

支那を中心として捲き起される東洋政局の渦と、スペインを繞る最近歐洲の不安に、世界の軍需工業界は異狀の活發を見るに至り、馬來亞錫市況もその波動に乘り好調を示現した。一九三六年十一月三日ロンドンに開催された國際錫生産制限委員會に於て、一九三七年度より向ふ五ケ年間の生産制限の第二次協定が成立し愈々錫業界の堅實性が確保され、市價二百二十磅シンガポール百十五弗が常に維持される事に決定された。

長く未解決の問題であつた邏羅の制限參加が實現し、基礎割當量一萬八千噸、白領ゴンゴー、一萬三千二百噸と折合ひ生産業界の問題が解決された。總年産額六萬六千八百六噸、他領よりの移入總額二萬六千九百三十八噸、輸出總計八萬三千三百六十六噸、前年度の六萬二千二百四十八噸に比して二萬一千百十八噸の激增である。

一九三六年度生産統計（單位噸）

月別	一九三六年累計	一九三五年度ノ比較増減	一九三五年累計
一月	五、四〇五	増 二、一一一	三、二九四
二月	四、七五四	増 四、七二六	五、四三三
三月	五、九二三	増 八、九〇六	七、一七六
四月	五、三〇三	増一〇、〇〇五	一七、三八〇
五月	五、〇六五	増一二、五二三	一七、九二七
六月	五、一八七	増一六、二七七	一五、三六〇
七月	六、四〇七	増一七、三三六	二〇、七〇八
八月	四、七二一	増一八、四一五	二四、三五〇
九月	五、一二五	増二〇、九五七	二六、九三三
十月	七、一二八	増二二、三一八	三二、七〇〇
十一月	五、三六一	増二三、〇〇〇	三七、三七九
十二月	六、四二七	増二一、一一八	四二、三二七

（單位千人）

月別	一九三六年			一九三七年累計			三五年ト比較増減		
	月末現在數	出生	死亡	月末現在數	出生	死亡	月末現在數	出生	死亡
一月	一、一二九	四二	二九	一、一二九	四二	二九	四	三	九
二月	一、一二四	三八	二九	二、二五三	八〇	五八	四	三	九
三月	一、一二〇	四一	二九	三、三七三	一二一	八七	四	三	九
四月	一、一一六	四一	二九	四、四八九	一六二	一一六	四	三	九
五月	一、一一二	四一	二九	五、六〇一	二〇三	一四五	四	三	九
六月	一、一〇八	四一	二九	六、七〇九	二四四	一七四	四	三	九
七月	一、一〇四	四一	二九	七、八一三	二八五	二〇三	四	三	九
八月	一、一〇〇	四一	二九	八、九一三	三二六	二三二	四	三	九
九月	一、〇九六	四一	二九	九、〇〇九	三六七	二六一	四	三	九
十月	一、〇九二	四一	二九	九、一〇一	四〇八	二九〇	四	三	九
十一月	一、〇八八	四一	二九	九、一八九	四四九	三一九	四	三	九
十二月	一、〇八四	四一	二九	九、二七三	四八〇	三四八	四	三	九

（單位千人）

月別	一九三六年			一九三七年累計			三五年ト比較増減		
	月末現在數	出生	死亡	月末現在數	出生	死亡	月末現在數	出生	死亡
一月	一、一二九	四二	二九	一、一二九	四二	二九	四	三	九
二月	一、一二四	三八	二九	二、二五三	八〇	五八	四	三	九
三月	一、一二〇	四一	二九	三、三七三	一二一	八七	四	三	九
四月	一、一一六	四一	二九	四、四八九	一六二	一一六	四	三	九
五月	一、一一二	四一	二九	五、六〇一	二〇三	一四五	四	三	九
六月	一、一〇八	四一	二九	六、七〇九	二四四	一七四	四	三	九
七月	一、一〇四	四一	二九	七、八一三	二八五	二〇三	四	三	九
八月	一、一〇〇	四一	二九	八、九一三	三二六	二三二	四	三	九
九月	一、〇九六	四一	二九	九、〇〇九	三六七	二六一	四	三	九
十月	一、〇九二	四一	二九	九、一〇一	四〇八	二九〇	四	三	九
十一月	一、〇八八	四一	二九	九、一八九	四四九	三一九	四	三	九
十二月	一、〇八四	四一	二九	九、二七三	四八〇	三四八	四	三	九

（單位千人）

月別	一九三七年			一九三八年累計			三六年ト比較増減		
	月末現在數	出生	死亡	月末現在數	出生	死亡	月末現在數	出生	死亡
一月	一、一二九	四二	二九	一、一二九	四二	二九	四	三	九
二月	一、一二四	三八	二九	二、二五三	八〇	五八	四	三	九
三月	一、一二〇	四一	二九	三、三七三	一二一	八七	四	三	九
四月	一、一一六	四一	二九	四、四八九	一六二	一一六	四	三	九
五月	一、一一二	四一	二九	五、六〇一	二〇三	一四五	四	三	九
六月	一、一〇八	四一	二九	六、七〇九	二四四	一七四	四	三	九
七月	一、一〇四	四一	二九	七、八一三	二八五	二〇三	四	三	九
八月	一、一〇〇	四一	二九	八、九一三	三二六	二三二	四	三	九
九月	一、〇九六	四一	二九	九、〇〇九	三六七	二六一	四	三	九
十月	一、〇九二	四一	二九	九、一〇一	四〇八	二九〇	四	三	九
十一月	一、〇八八	四一	二九	九、一八九	四四九	三一九	四	三	九
十二月	一、〇八四	四一	二九	九、二七三	四八〇	三四八	四	三	九

（單位千人）

月別	一九三八年			一九三九年累計			三七年ト比較増減		
	月末現在數	出生	死亡	月末現在數	出生	死亡	月末現在數	出生	死亡
一月	一、一二九	四二	二九	一、一二九	四二	二九	四	三	九
二月	一、一二四	三八	二九	二、二五三	八〇	五八	四	三	九
三月	一、一二〇	四一	二九	三、三七三	一二一	八七	四	三	九
四月	一、一一六	四一	二九	四、四八九	一六二	一一六	四	三	九
五月	一、一一二	四一	二九	五、六〇一	二〇三	一四五	四	三	九
六月	一、一〇八	四一	二九	六、七〇九	二四四	一七四	四	三	九
七月	一、一〇四	四一	二九	七、八一三	二八五	二〇三	四	三	九
八月	一、一〇〇	四一	二九	八、九一三	三二六	二三二	四	三	九
九月	一、〇九六	四一	二九	九、〇〇九	三六七	二六一	四	三	九
十月	一、〇九二	四一	二九	九、一〇一	四〇八	二九〇	四	三	九
十一月	一、〇八八	四一	二九	九、一八九	四四九	三一九	四	三	九
十二月	一、〇八四	四一	二九	九、二七三	四八〇	三四八	四	三	九

（單位千人）

月別	一九三九年			一九四〇年累計			三八年ト比較増減		
	月末現在數	出生	死亡	月末現在數	出生	死亡	月末現在數	出生	死亡
一月	一、一二九	四二	二九	一、一二九	四二	二九	四	三	九
二月	一、一二四	三八	二九	二、二五三	八〇	五八	四	三	九
三月	一、一二〇	四一	二九	三、三七三	一二一	八七	四	三	九
四月	一、一一六	四一	二九	四、四八九	一六二	一一六	四	三	九
五月	一、一一二	四一	二九	五、六〇一	二〇三	一四五	四	三	九
六月	一、一〇八	四一	二九	六、七〇九	二四四	一七四	四	三	九
七月	一、一〇四	四一	二九	七、八一三	二八五	二〇三	四	三	九
八月	一、一〇〇	四一	二九	八、九一三	三二六	二三二	四	三	九
九月	一、〇九六	四一	二九	九、〇〇九	三六七	二六一	四	三	九
十月	一、〇九二	四一	二九	九、一〇一	四〇八	二九〇	四	三	九
十一月	一、〇八八	四一	二九	九、一八九	四四九	三一九	四	三	九
十二月	一、〇八四	四一	二九	九、二七三	四八〇	三四八	四	三	九

（單位千人）

月別	一九四〇年			一九四一年累計			三九年ト比較増減		
	月末現在數	出生	死亡	月末現在數	出生	死亡	月末現在數	出生	死亡
一月	一、一二九	四二	二九	一、一二九	四二	二九	四	三	九
二月	一、一二四	三八	二九	二、二五三	八〇	五八	四	三	九
三月	一、一二〇	四一	二九	三、三七三	一二一	八七	四	三	九
四月	一、一一六	四一	二九	四、四八九	一六二	一一六	四	三	九
五月	一、一一二	四一	二九	五、六〇一	二〇三	一四五	四	三	九
六月	一、一〇八	四一	二九	六、七〇九	二四四	一七四	四	三	九
七月	一、一〇四	四一	二九	七、八一三	二八五	二〇三	四	三	九
八月	一、一〇〇	四一	二九	八、九一三	三二六	二三二	四	三	九
九月	一、〇九六	四一	二九	九、〇〇九	三六七	二六一	四	三	九
十月	一、〇九二	四一	二九	九、一〇一	四〇八	二九〇	四	三	九
十一月	一、〇八八	四一	二九	九、一八九	四四九	三一九	四	三	九
十二月	一、〇八四	四一	二九	九、二七三	四八〇	三四八	四	三	九

一九三六年度錫價昇降比較

月日	ロンドン相場	ニューヨーク相場		シンガポール相場	
	磅	仙	弗	弗	
一月六日	二一二 七五	四七 五〇		一〇二	二五
一月三十一日	二〇六 二五	四八 一二五		一〇〇	三七五
二月十五日	二〇七 二五	四七 七五		一〇二	〇〇
二月二十九日	二一二 二五	四八 二五		一〇二	六二五
三月十五日	二一五 三七五	四八 五〇		一〇三	八七五
四月十五日	二一〇 六二五	四七 一二五		一〇〇	三七五
五月十五日	二〇四 七五	四六 八七五		一〇三	七五
五月二十八日	二〇一 二五	四五 八七五		九九	一二五
五月二十九日	一九八 三七五	四五 二五		九七	〇〇
六月十五日	一九七 一七五	四一 五〇		八八	七五
六月二十日	一九六 五〇	四〇 五〇		八五	六二五
七月十五日	一九二 七五	四四 五〇		九三	二五

十二月 八三六六 八三六六 二一一八
十一月 一〇二六 一〇二六 一八八六〇
十月 五八六 五八六 一五四八〇
九月 四四三 四四三 一五二六三
八月 五〇五 五〇五 一四八〇〇
七月 五四三 五四三 一三〇八一
六月 二六一 二六一 一〇五二四
五月 三二四 三二四 一〇四〇〇
四月 三二四 三二四 一〇四〇〇
三月 六八三 六八三 一一九三五
二月 一〇六 一〇六 一一六〇〇
一月 二一一 二一一 一二三六〇
昭和十一年 一二三六 一二三六 一二三六〇

一九三六年度錫鑛出荷情（單位噸）

一九三六年度錫價昇降比較

	磅	仙	弗
八月十五日	一八一三七五	四二五〇	八九七五
九月十五日	一九八二五	四五一二五	九七〇〇
十月一日	二〇三七五	四六〇〇	一〇〇七五
十月十五日	二〇〇一二五	四四五〇	九七五
十一月二日	二〇八一二五	四五八七五	一〇一七五
十一月五日	二一七五〇	四七三七五	一〇五〇〇
十一月七日	二三五七五	四七〇〇	一〇四〇〇
十一月十一日	二四四〇〇	四六〇〇	一〇二〇〇
十二月二日	二三五〇〇	四五一七五	一〇〇一七五
十二月十六日	二三六八七五	四五二七五	一〇〇二五

附記

一九三七年度に入りて引き續き値昇り好調にあり三月三十一日現在相場

ロンドン	二九〇磅〇〇
ニューヨーク	六三仙四分三
シンガポール	一四二弗七五

以上

東亞經濟調査局　弘報課

名稱	所在地	成立年月	經費	藏書數	閱覽人數	備考
十三行博物館	臺北縣	民國十八年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立博物館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立師範學院圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北工業專科學校圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北商業專科學校圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北女子師範學校圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北女子中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第一中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第二中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第三中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第四中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第五中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第六中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第七中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第八中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第九中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第十中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第十一中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第十二中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第十三中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第十四中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第十五中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第十六中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第十七中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第十八中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第十九中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第二十中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第二十一中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第二十二中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第二十三中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第二十四中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第二十五中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第二十六中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第二十七中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第二十八中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第二十九中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第三十中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第三十一中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第三十二中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第三十三中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第三十四中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第三十五中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第三十六中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第三十七中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第三十八中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第三十九中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第四十中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第四十一中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第四十二中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第四十三中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第四十四中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第四十五中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第四十六中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第四十七中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第四十八中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第四十九中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第五十中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第五十一中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第五十二中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第五十三中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第五十四中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第五十五中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第五十六中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第五十七中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第五十八中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第五十九中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第六十中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第六十一中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第六十二中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第六十三中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第六十四中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第六十五中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第六十六中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第六十七中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第六十八中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第六十九中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第七十中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第七十一中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第七十二中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第七十三中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第七十四中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第七十五中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第七十六中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第七十七中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第七十八中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第七十九中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第八十中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第八十一中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第八十二中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第八十三中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第八十四中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第八十五中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第八十六中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第八十七中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第八十八中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第八十九中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第九十中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第九十一中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第九十二中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第九十三中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第九十四中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第九十五中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第九十六中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第九十七中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第九十八中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第九十九中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	
臺灣省立臺北第一百中學圖書館	臺北市	民國三十四年	一、〇〇〇元	一、〇〇〇冊	一、〇〇〇人	

D-II-d

南情第9號

昭和拾貳年四月廿五日

南洋情報

軍需工業用イルミナイト

煙幕原料としてのイルミナイトは世界的需要の増加から馬來亞半島に於ける生産も急激な增加を示した、之に關し馬來亞聯邦州地質測量局（Geological Survey Department. F.M.S.）の發表に據れば。

イルミナイト、チタネート（Ferrous titanate）合成鐵、チタニユーム及酸素チタニユームペイント製造に重要されるに到つた。白チタニユームは白鉛及白亞鉛よりは遙かに不透明體であるため少量にて充分なる効果あるを以て白化要素として必要欠くべからざるものである、護謨製品の製造にもこの目的のために使用せられる。煙幕としてのチタニユームテトラコロイド（Titanium tetrachloride）の製造に使用されるイルミナイトは前記製造と比較して餘り重要でない様に考へられる。

馬來亞に於ける產出額は非常に少量なるもので、印度の Travancore

State の産出に比し問題にならない量であるが、累年増加の一途を示して居る。

馬來亞輸出額

		印度輸出額
一九三四年	五〇噸	七五六四四噸（三九二四五磅）
一九三五年	三〇〇〇噸	
一九三六年	一〇三一四噸	一二七〇五一噸（五八七八九磅）

馬來亞に於けるイルミナイト主産地はバタンパタン地方で不明（Batang padang District perak. F.M.S.）錫と共に産出され其の搬出費は非常に低廉なるも生産上の競爭地たる印度に比して比較的高率なのは錫鑛業の副産物たるアマンの主要構成素としてイルミナイトが生産されるからである。

馬來亞鑛山監督局長の報告によれば現在馬來亞に埋藏せられるアマン鑛は總計二四、〇〇〇噸と稱されて居るがよて大量が埋藏されてゐるであらう」と。

地質測量局長 **Mr. E. S. Willbourn** は新聞紙上次の如き警告をなしてゐる。

昨年の年報にイルミナイトは煙幕として化學藥品に製造される旨報告した處が、某新聞（外地發行の）は次の如き見出の下に**捏**造記事を掲載したために頗る迷惑を蒙つた、卽一紙は **Malayan hatives making fortunes** 他は **Natives rush to Buy Smoke-Screens** 而して馬來亞の鑛山業者は利益を擧ぐるために夜を日についでイルミナイトの生產を急いでみると事實を無視した記事を揭げた、實に馬來亞鑛業に對して無識も甚しいものである」と。

以上

昭和十二年四月廿五日　報告

東亞經濟調査局　弘　報　課

Total amount of dust and smoke-pigment

Small amount of dust and smoke-pigment

P-11-D

南情第10號

南洋情報

一

一九三七年三月馬來亞輸出入貿易統計

「統計局發表商業報告に據る」

昭和拾貳年四月廿六日

本年一月より好調を重ね來れる馬來亞の對外貿易は三月に於て一九三〇年以來の記錄を示した、然も全馬來亞勞働者の罷業、米國業界の動搖、船腹の不足其他の影響を受け、錫、護謨價の起落不常なる中、三月分貿易總額一億四千三百二十三萬八千弗の鉅額に達した、一九三六年三月の八千八百七十四萬一千弗に比して實に五千四百四十九萬七千弗の驚人的增加であつた。

卽ちその輸入に於て五千六百九十萬八千弗、一九三六年三月の三千七百六十二萬四千弗に比して一千九百二十八萬四千弗の增加、亦本年二月の五千〇十二萬五千弗に比較して六百七十八萬三千弗の增加となつた。

輸出に於て總額八千六百三十三萬弗、一九三六年三月の五千百十一萬七千弗に比して三千五百二十一萬弗の增加であり、前月の六千百二十五萬一千弗に比して二千五百〇七萬九千弗の增加を示した、然して三月分輸出超過二千九百四十二萬二千弗の鉅額であつた。

輸入

一、食糧、飲料、煙草

	總値 弗
仕國	一、八七〇、〇〇〇
英國	三、三四六、〇〇〇
英領及各保護國	五六六、〇〇〇
歐洲各國	一一八、〇〇〇
米國	四一二、〇〇〇
日本	一、九一九、〇〇〇
蘭領東印度	三、五二六、〇〇〇
其他各國	

	總値弗
合計	
本年二月	一一、七五七、〇〇〇
前年三月	一三、七二六、〇〇〇
	一〇、六八六、〇〇〇
二、原料及未製品	
仕出國	
英國	三七、〇〇〇
英領及保護國	三、六九四、〇〇〇
歐洲各國	一六、〇〇〇
米國	二九、〇〇〇
日本	三一三、〇〇〇
蘭領東印度	一二、九二九、〇〇〇
其他各國	六、八二四、〇〇〇
合計	二二、八四七、〇〇〇
本年二月	一七、〇七七、〇〇〇

本年二月		
合計		一七、三三六、〇〇〇
其他各國		五、四二四、〇〇〇
關東印度		二、八七〇、〇〇〇
蘭領東印度		二、〇〇二、〇〇〇
日本		八二三、〇〇〇
米國		二、八〇一、〇〇〇
歐洲各國		五、四〇二、〇〇〇
英領及保護國		九九五、〇〇〇
英國		三〇、三一七、〇〇〇
仕出國		一八、七〇九、〇〇〇
三、製造品		一四、五九五、〇〇〇
前年三月		

本年二月		
合計		一七、三三六、〇〇〇
其他各國		五、四二四、〇〇〇
關東印度		二、八七〇、〇〇〇
蘭領東印度		二、〇〇二、〇〇〇
日本		八二三、〇〇〇
米國		二、八〇一、〇〇〇
歐洲各國		五、四〇二、〇〇〇
英領及保護國		九九五、〇〇〇
英國		三〇、三一七、〇〇〇
仕出國		一八、七〇九、〇〇〇
三、製造品		一四、五九五、〇〇〇
前年三月		

		總値弗
四、銀盾及金銀		
	仕出國	一四、〇〇〇
	英國	四一四、〇〇〇
英領及保護國		八二、〇〇〇
其他各國		五一〇、〇〇〇
合、計		一八八、〇〇〇
本年二月		六一二、〇〇〇
前年三月		四八三、〇〇〇

右の外郵便小包によるもの

		總値弗
輸出		
一、飲料、食糧、煙草		九〇一、〇〇〇
	仕向國	
	英國	三、〇三四、〇〇〇
英領及保護國		

二、原料及未製品

	總價弗
歐洲各國	二四九、〇〇〇
米國	二六二、〇〇〇
日本	一四、〇〇〇
蘭領東印度	四八五、〇〇〇
其他各國	一七一、七〇〇
合計	四、六六二、〇〇〇
本年二月	四、六九五、〇〇〇
前年三月	四、四七六、〇〇〇

	總價弗
仕向國	六、三四七、〇〇〇
英、國	三、八五〇、〇〇〇
英領及保護國	一二、六六〇、〇〇〇
歐洲各國	二六、五三四、〇〇〇
米國	二、〇三四、〇〇〇

三、製造品

	總値 弗
日本	五、一〇七、〇〇〇
蘭領東印度	一四九、〇〇〇
其他各國	一、一六六、〇〇〇
合計	五五、八一九、〇〇〇
本年二月	三四、五二五、〇〇〇
前年三月	二九、五七〇、〇〇〇
仕向國	
英國	一、一〇二、〇〇〇
英領及保護國	三、二四九、〇〇〇
歐洲各國	一、四一一、〇〇〇
米國	一四、二三六、〇〇〇
日本	一、五七八、〇〇〇
蘭領東印度	一、一五七、〇〇〇

國別	總値
其他各國	一、七三一、〇〇〇
合計	二四、四五八、〇〇〇
本年二月	二一、四二八、〇〇〇
前年三月	一五、八四七、〇〇〇
四、銀盾及銀塊	
仕向國	一八二、九一八、二〇〇、〇〇〇
英領及保護國	一〇、〇〇〇、〇〇〇
米國	一二、〇〇〇、〇〇〇
蘭領東印度	二〇六、〇〇〇
合計	四四、〇〇〇
本年二月	一一〇、五〇〇
前年三月	一八五、〇〇〇

右之外郵便小包によるもの

第一四半期馬來亞對外貿易

一九三七年	一月	一一八、四三九、〇〇〇	弗
	二月	一一七、三七六、〇〇〇	
	三月	一四三、二三八、〇〇〇	
合計		三七三、〇五三、〇〇〇	
一九三六年	同期	二六六、六六二、〇〇〇	
	同期輸出		
	一月	六四、二九五、〇〇〇	
	二月	六七、二五七、〇〇〇	
	三月	八六、三三〇、〇〇〇	
合計		二一七、八七六、〇〇〇	
	同期輸入		
	一月	五四、一四四、〇〇〇	
	二月	五〇、一二五、〇〇〇	

二月	一九三七年	五〇、一二五、〇〇〇
一月	〃	五二、四四〇、〇〇〇
合計		一〇二、五六五、〇〇〇
三月	一九三六年	八六、三〇〇、〇〇〇
二月	〃	六七、二五七、〇〇〇
一月	〃	六四、二五〇、〇〇〇
合計		二一八、八〇七、〇〇〇
三月	同期輸入	八六、三〇〇、〇〇〇
二月	〃	六七、二五七、〇〇〇
一月	〃	六四、二五〇、〇〇〇
合計		二一八、八〇七、〇〇〇
三月	同期輸出	二六、六六二、〇〇〇
二月	〃	三五、三〇五、〇〇〇
一月	〃	一四、三二八、〇〇〇
合計		七六、二九五、〇〇〇
三月	一九三七年	六、六九三、〇〇〇 弗
二月	〃	四、五九五、〇〇〇
一月	〃	一、九七八、〇〇〇
輸入		三、五二五、四〇〇 弗
三月	一九三七年	三、七一六、〇〇〇
二月	〃	二、四七五、〇〇〇
三月	一九三六年	一、八四三、〇〇〇
二月	〃	一、一七七、〇〇〇
一月	〃	一、一四四、〇〇〇
合計		二一、八〇七、〇〇〇

註三月分輸入増加は鋼鉄及建築材料の騰貴による。

對日貿易（三月分）

輸出

輸入

對米貿易（三月分）

輸出		
一九三七年	三月	四一、〇三四、〇〇〇弗
〃	二月	二四、三七三、〇〇〇
一九三六年	三月	二四、九一一、〇〇〇
輸入		
一九三七年	三月	九七〇、〇〇〇弗
〃	二月	七二九、〇〇〇

三月輸出增加は一月二月米國海員罷業に累されてゐたものがその解決と同時に錫、護謨の一齊運載をされたるによる。

對英貿易

輸出		
一九三七年	三月	八、五三二、〇〇〇

一九三六年 二月	入	五、九五七、〇〇〇
一九三六年 三月	入	六、九二四、〇〇〇
一九三七年 三月	入	七、三四五、〇〇〇
一九三七年 二月	入	五、七七〇、〇〇〇
一九三六年 三月	入	五、〇七二、〇〇〇

以上

新嘉坡

鄉間正平

P-2-D

南洋情報第11號

南洋情報

馬來亞景氣動態の近況

附二月貿易概要

世界的軍擴の嵐、英國の太平洋艦隊創設に伴ふ軍備大擴張五ヶ年計畫、アメリカ罷業の鎭靜景氣好轉等々に翻られて、國際錫業及び護謨界の活氣は、錫、護謨の二大産業に編重せる馬來亞に八年來の繁榮の曙光が見られ樣としてゐる。

錫業者及び護謨栽培業者は勿論、その從業者の鼻息凄じいものがあつて、遂に三月中旬より聯邦州並にジヨホール州、マラツカに迄波及した護謨園、鑛山苦力の總罷業が起された、多年護謨價暴落不況の中に物價騰貴に呻吟してゐた苦力が好況來と共に賃銀値上要求の馬來亞未曾の大罷業を捲き起したことも決して無理ではたい、罷業團の勝利に歸して漸次各地鎭靜されつゝある。

昭和拾貳年四月拾五日

現在馬來亞各地橡膠栽培園に勞働に從ふ苦力の概況を見れば、一九三五年末の勞働局の統計によれば（一九三六年度末より增加しつゝあるが）印度人苦力及その家族十八萬三千二百〇五人、支那人苦力約六萬人、馬來人約一萬九千人であつた、現在インド人二十五萬餘、支那人八萬餘、馬來亞人二萬二千人、その他之等に寄食してゐる者總計十四萬餘となつてゐる。この勞働者が今回の罷業勝利によつて增額された賃銀は、印度人苦力男女日給約八仙、一月の就業日數二十五日として月額平均二弗の値上、今四月より印度人苦力は從前に比して一ケ月約五十萬弗の收入が增されるのである、支那人苦力平均一日二十仙、月六弗の値上これが合計月四十八萬弗の增收、馬來亞人苦力一日八仙月二弗の値上月收增加四萬五千弗、これ等護謨園の苦力のみにても合計約百〇二萬五千弗の鉅額の賃銀が每月苦力の懷中に餘分に入る事になつた。

勿論彼等は本國送金に營々たるものであるから或程度の送金增額

を見ろとしても彼等の購買力が増大され毎月七、八千莫弗の金は各商人を通して馬來語に振りまかれるであらう。從つてサロン、靴、メリヤス類、自轉車等の安價な日本品の需要が増加されるものと見ろ。

二月中の護謨市況

本年一月初旬より護謨市場に大きな影響を與へた、アメリカの自動車製造從業の勢働者罷業も二月十二日漸くその解決を見ろに至つて、操業開始と共に各地の市場は強調を盛り返し、シンガポール市場も支那正月休日明けから漸次好調を示して來た、乍然この勞資爭議と世界的船腹の不足は業界に相當大きな障害を與へた、アメリカ仕向の減退と二月の日足らずはシンガポール輸出の減少となつた。

即ち二月末の在荷は一月末の四一、五〇〇〇噸に比して五一、〇〇〇〇噸となり一〇、〇〇〇〇噸の増加、輸出三八、〇五八噸で一月の四一、五七一噸に比し三、五〇〇噸の減少となつた。

然るにロンドン在荷はソ聯其他歐洲各國の買進みにより漸次減少の一途を辿り一月末の七一、〇三一噸から二月の六三、七九三噸となり七、二三八噸の減少を示し、業者は生産割當量增加を要求するが、船腹不足の現況と四月一日よりの運賃値上等に依り産地統計の改善は容易で無い、從つて消費工場市場に影響あるものと見られてゐる。

錫市況

國際錫業界は前年十一月三日及本年一月十一日兩度、協定に成功した、特に一月十一日ロンドンに於て開催された國際錫生産制限委員會はその第二次協定の成立に依つて、最も困難とされた三つの問題を解決して業界の不安を一掃した、然して錫價は歩々昇漲を見るに至つた。

一、長く問題とされてゐた暹羅の生産制限加入が基礎割當量一八、〇〇〇噸にて解決した。

二、一九三七年より向ふ五ケ年間の第二次生産制限協定が確立された。

三、業界待望の錫市價維時が決定された●

ロンドン　二〇〇磅ー一ー英噸當リ
シンガポール　一一五弗ー一ー瓲當リ

一月中變動無くして二月に入り中旬より十九日に到り俄然昇騰を示した、シンガポール市價一一八弗五〇仙前日に比し二弗七五仙の飛躍を見せ、ロンドンも一六〇志の値上り二四二磅五志、ニューヨーク一仙二分一上げの五三仙四分三と熱狂的相場を現出した、平調に向ひつゝある市場斯如き狂奔を見た原因は蔓謨同樣に前月來懸念されてゐたアメリカの罷業解決による買進みと二月十八日發表された英國軍擴五ケ年案によるものとされてゐる。翌二十日一二一弗一二仙、二十一日一二三弗二五仙、二十三日一二五弗二五仙と上昇一途、ロンドン現物二五一磅、先物二五二磅と近來の好調を示したが、之れは政治的影響を受けスペキレーターの活躍によるとみなされ、二十四日より漸次下落ちを見せ月末二十七日一二二弗と反落となつ

たが、それも一時的現像で、アメリカ並に歐洲大陸筋の買進みが堅實を豫想され、三月五日パリに開催予定の國際錫生産制限委員會と共に多大の期待がかけられてゐる。

一月末世界錫總在荷は二二、七六六噸と見積られ一月末の二四、九二二噸に比して二、〇五六噸の減少を示した、これは各國の買進みによるものと見られてゐる。シンガポール市場も輸出六、五九五噸輸入二、三八三噸と前月に比して一、三四四噸、四〇一噸と減少した。

輸出

仕向國	數量（噸）
日本	四〇六
英國	五三五
米國	四、五九五
歐洲各國	八〇六
英屬領	二三五

輸入

仕出國	數量（噸）
日本	七九
暹羅	一、七二五
緬甸	三二三
佛領印度支那	一二四
南亞聯邦	六八

| | | |

な減少を示してゐるが、之れは二月の日不足と船腹の不足が主要原因と云はれる。

輸出入總額	一一、三七六、〇〇〇弗		
輸出	六一、二五一、〇〇〇弗		
輸入	五〇、一二五、〇〇〇弗		

これを前月に比較すれば

總額	一一、八四三、九〇〇〇弗	（一月分）
二月分減少	七、〇六三、〇〇〇弗	
輸出に於いて	六四、二九五、〇〇〇弗	（一月分）
二月分減少	三、〇四四、〇〇〇弗	
輸入	五四、一四四、〇〇〇弗	（一月分）
二月分減少	四、〇一九、〇〇〇弗	

	一月	二月
對米輸出	二四、三七三、〇〇〇弗	二九、二七三、〇〇〇弗

輸入		七二九、〇〇〇	七〇七、〇〇〇
對日	二月		一月
輸出		四、五九五、〇〇〇弗	四、三九九、〇〇〇弗
輸入		二、七一六、〇〇〇	三、五一〇、〇〇〇
對英	二月		一月
輸出		五、九五七、〇〇〇弗	四、九九三、〇〇〇弗
輸入		五、七七〇、〇〇〇	七、一七三、〇〇〇

前月に比して減退を見たるも尙一千萬弗餘の出超であつて馬來亞對外貿易は依然として順風に惠まれて往くものと見られてゐる、馬來亞の大宗産業、護謨、錫の第一顧客は米國である。

二月輸出入貿易の類別をすれば。

輸入

一、食糧、飲料、煙草

	價額
仕向國	
英國	一、六五三、〇〇〇弗
英領及各保護國	三、五四一、〇〇〇
歐洲各國	五七二、〇〇〇
米國	一、〇〇〇、〇〇〇
日本	五七〇、〇〇〇
蘭領東印度	一、〇六一、〇〇〇
其ノ他各國	五二二、九〇〇
合計	一、三七二、六〇〇
一九三七年一月	一、三二一、四〇〇
一九三六年一二月	一、一八五、〇〇〇

二、原料及未製品

	價額
仕向國	
英國	四一、〇〇〇弗

一、食料、飲料、煙草

(一) 綿

イ、綿

二月中ニ於ケル對日綿出額ハ一、〇〇〇、〇〇〇弗ニシテ一月ノ二、〇〇〇、〇〇〇弗ニ比シ一、〇〇〇、〇〇〇弗ノ減少ヲ示シタリ。

米國ノ綿ハ一般ニ品質ノ點ニ於テ東亞ノ大宗產業ノ綿、殊ニ印度ノ綿ニ劣ルモノト見做サレ、從テ比較的高價ナルヲ以テ、東亞ノ綿工業ハ米綿ヲ敬遠シ、印度綿ヲ好ムノ傾向アリ。

	價額
總入	
一九三六年	
二月	二一、六〇〇、〇〇〇弗
一月	二三、一六〇、〇〇〇
總出	
一九三六年	
二月	一四、四〇〇、〇〇〇弗
一月	一五、一〇〇、〇〇〇
綿	
一九三六年	
二月	一、〇〇〇、〇〇〇弗
一月	二、〇〇〇、〇〇〇
綿	
一九三六年	
二月	一、四〇〇、〇〇〇弗
一月	一、三〇〇、〇〇〇

英領及各保護國	三、三九六、〇〇〇
歐洲各國	八、〇〇〇
米國	一五、〇〇〇
日本	一八三、〇〇〇
蘭領東印度	七、七〇四、〇〇〇
其他各國	五七三、〇〇〇
合計	一七、〇七七、〇〇〇
一九三七年一月	二〇、二五三、〇〇〇
一九三六年二月	一四、六四四、〇〇〇

三、既製品

仕出國	價額 弗
英國	四、〇七六、〇〇〇
英領及保護國	二、五七一、〇〇〇
歐洲各國	一、四四一、〇〇〇

英 仕出 三、既製品 一九三七年一月 合計 其ノ他各國 蘭領東印度 日本 米國 歐洲各國 英領及各保護國 英 仕出 弗 價額

米國		
日本		
蘭領東印度		
其他各國		
合計		
一九三七年一月		
一九三六年一月		

四、銀盾及金銀

仕出國	價額（弗）
蘭領東印度	四、〇〇〇
英領及保護國	一五四、〇〇〇
其他各國	三〇、〇〇〇
合計	一八八、〇〇〇
一九三七年一月	二三二、〇〇〇
一九三六年一月	一五、七九五、〇〇〇
一九三五年一月	一九、九七四、〇〇〇
一九三四年一月	一八、七〇九、〇〇〇
一九三三年一月	一七、八四二、〇〇〇
一九三二年一月	六、二〇二、〇〇〇
一九三一年一月	一七、九六三、〇〇〇
一九三〇年一月	六一、四〇〇、〇〇〇

一九三六年　二月

此の外に郵便局扱ひ小包其他

	額
一九三七年　一月	三二五、〇〇〇
一九三六年　二月	四二五、〇〇〇
輸出	四七三、〇〇〇
一、食糧、飲料、煙草	三六六、〇〇〇
仕向國	價
英國	九〇二、〇〇〇
英領及保護國	一、七七九、〇〇〇
歐洲各國	一二五、〇〇〇
米國	一八五、〇〇〇
日本	四〇、〇〇〇
蘭領東印度	一、二六四、〇〇〇
其他各國	四三六、〇〇〇

其他各國
蘭領東印度
日本
米國
歐洲各國
英國及保護國
英國
仕向國

一九三六年 二月
一九三七年 一月
一九三七年 二月

一、食糧、飲料、煙草
出額
買額

四、三六〇、〇〇〇
一、二六四、〇〇〇
一、八五〇、〇〇〇
一、一二五、〇〇〇
一、七四九、〇〇〇
八〇二、〇〇〇
一、四二五、〇〇〇
一、四三五、〇〇〇
三六〇、〇〇〇
三二五、〇〇〇

合計
一九三七年 一月
一九三六年 二月

二、原料及未製品
仕向國
英國
英領及保護國
歐洲各國
米國
日本
蘭領東印度
其他各國
合計
一九三七年 一月

價額 弗

四、六九五、〇〇〇
五、七〇〇、〇〇〇
四、二一九、〇〇〇
三、六六〇、〇〇〇
一、七七三、〇〇〇
九、九八二、〇〇〇
一五、三〇九、〇〇〇
三、一三九、〇〇〇
七六〇、〇〇〇
五八〇、〇〇〇
三四、五二五、〇〇〇
三七、五三五、〇〇〇

一九三六年一月

合計

其他各國
關東州
日本
米國
歐洲各國
英領及保護國
英國
仕向國

三十五年三月〇〇〇
三四年二月〇〇〇
五八〇〇〇
日六〇〇〇
三一三九〇〇〇
一五三〇〇〇
九八二〇〇〇
七日三〇〇〇
六六〇〇〇
額

二、未製品

一九三六年二月

一九三七年一月

合計

價額

三、既製品

一九三六年二月

仕向國　一、〇八五〇〇〇
英國　四、四四七〇〇〇
英領及保護國　一、五五八〇〇〇
歐洲各國　八、八七九〇〇〇
米國　一、四四二〇〇〇
日本　一、〇四一〇〇〇
蘭領東印度　二、九七六〇〇〇
其他各國　二一、四二八〇〇〇

合計　二三、七七二〇〇〇

一九三七年一月　二〇、五一四〇〇〇

一九三六年　一一月　一八、五三二〇〇〇

四、銀盾及銀塊

仕向國	價額 弗
英國	三〇四、〇〇〇
英領及保護國	四九〇〇〇
蘭領東印度	七四、〇〇〇
其他各國	一七〇〇〇
合計	四四四、〇〇〇
一九三七年 一月	三八三、〇〇〇
一九三六年 二月	九〇三、〇〇〇
右の外郵便小包によるもの	一五九、〇〇〇
一九三七年 一月	一六三、〇〇〇
一九三六年 二月	一〇六、〇〇〇

以上の統計に見る如く二月馬來亞の輸出入貿易は日數不足の月ではあり、支那正月の休日を加へ其の上、馬來亞第一の顧客國たる米

國の勞働者罷業、船腹不足等幾多の障害によつて減少を見たが、尚甚の出超であつた、準戰時體制下にある世界軍擴の嵐の中、馬來亞産業の繁榮は想見するに餘りある。

以 上

於シンガポール

鄉 間 正 平

昭和十二年四月十五日

發行所　東京市麹町區有樂町一丁目一番地
印刷所　東京市麹町區有樂町一丁目一番地
印刷人　平田重藏
昭和十二年四月十五日　印刷
昭和十二年四月十五日　發行

非賣品

馬來亞織物輸入許可量

一九三七年五月二十六日新嘉坡發通信ー

一九三七年五月二十五日海峽殖民地政府公報號外を以てトーマース總督は織物輸入條例（制限）第三條の規定に據り、其の期間と、各輸出國の割當數量とを公布した。

指定の各種外國製造の制限紡織物類を輸入せんとする者は、申請書を提出して係官の許可證取得すべしと。その制限量次の如し。

製造國名		
日本	灰色未漂白及漂白棉布	二、〇一一、八八二
支那		四〇〇、〇二六
伊太利		七八、〇一三
日本	染色棉布	七、四九五、〇九二
支那		五、〇七二、五三七
伊太利		三九七、〇〇〇
日本	捺染棉布	四、三七九、一四五
支那		一一八、〇九二
伊太利		一七九、九八六
日本	交織色物棉布	三〇、五二九
支那		七三四
伊太利		七九二、九八九
日本	棉布サロン	三七、八六〇
支那		一四六
伊太利		四、九七五

國名	日本	伊太利	支那	英國	印度
製造					
人絹足布	三、三四三、七二七	三、三六〇、六七五	五〇二、六六五	四、〇五九	六、二六四
人絹サロン	三六、九七六	一、〇七九	五七四	五八〇	七八七
計	一七、三三四、二一二	一、七九〇、六〇四	一、六二二、九〇九	一、六二二、九〇九	一、〇九二
	一七、三三四、二一二	一、七九〇、六〇四	一、六二二、九〇九	一、六二二、九〇九	一、〇九二
	三七、八六	一、五九、一五九	一、五〇三、九〇九		

（單位碼）

印度ノ和蘭領ヘ輸出ハ人絹サロンノ外ハ殆ンド皆無ニ近イ。

一回當輸出高ハ少ナクモ十萬碼以上ニ達シ大ナルモノハ百萬碼ニ及ブ。

ハンブルグ（獨逸）ヨリ爪哇（蘭領）泗水ノ航路ニ就イテ、其ノ經由ヲ調ベテミルト、

ハンブルグ　アムステルダム　ロッテルダム　マルセイユ　ポートサイド　スエズ　ジブチ　アデン　コロンボ　シンガポール　泗水

一回當輸出高ハ泗水ニ於ケル輸入高ヲ示スモノデアル。

英國ヨリノ輸出ハ英國ノ植民地ヲ經由シテ輸出サレルモノガ多イ。

印度ノ和蘭領ヘノ輸出ハ、ボンベイ、カラチ、マドラス、カルカッタ等ノ港カラ輸出サレルモノガ多イガ、其ノ他ノ港カラモ輸出サレテヰル。

支那ノ和蘭領ヘノ輸出ハ、上海（支那）經由ノ香港ヨリ輸出サレルモノガ多ク、其ノ他、神戸、横濱、大阪ヨリ輸出サレルモノモアル。

伊太利ノ和蘭領ヘノ輸出ハ、ジェノア、ナポリ、ベニス、ミラノ等ノ港カラ輸出サレテヰル。

日本ノ和蘭領ヘノ輸出ハ、神戸、横濱、大阪ヨリ輸出サレテヰル。

極秘　無断複写禁止

（單位圓）

蘭領印度	一、八五八、一七〇	一、六一二、八〇五	一、三七〇、六〇四	一、三四二、一二一	五二〇、八六四	五二〇、八六四	一、六〇〇、三五八
蘭領印度	五八〇、五五四	七一〇、六〇五	六〇五、二三五	一、一六八、一五八	三八	八六	一五八、一五八
英領印度	三三六、〇六四	三六、八五六	一、一六八、一五八				
支那	五〇二、六六五	一、一〇五、六〇五	六〇五、二三五				
日本	三、三四二、一二一	三六、八五六	一、一六八、一五八				
其の他諸國	人絹糸	人絹糸	人絹糸	人絹糸	人絹糸	人絹糸	人絹糸
蘭領印度	二八四、二二二	五二〇、八六四	三八	一、六〇〇、三五八			
蘭領印度	一、二二二、八一二	二〇四、八六四	八六	一五八、一五八			

上記の制限紡織物の中には五〇%の人絹織物が含まれ、尙人絹、綿交織物、交織物の中人絹絲の多きものある爲め磅を以て單位とすること。輸入織物登記官は前記制限紡織輸入許可申請の過剰を恐れて特に通告を發して許可證の制限をなすこと。申請者は所定の書式により六月五日迄に登記官（統計局長）エスハントー氏に輸出許可證申請をなす可き事。

(一)綿國サ名

一、人日本絹布

二、サン支那外正布

三、サ伊太利

四、制和蘭物輸入許可證下附申請書樣式

五、申蘭領東印度

制限期間店一九三七年　自七月一日至十二月三十一日

昭和十三年　自七月一日至十二月三十一日

五　關稅東印度

四　味噌

三　和文利

二　支那

一　日本

(一)　國名

輸出許可申請書（英國情報）エヌヘンイー九四六日五月六日迄に登記官（綿業）宛輸出許可申請書を提出すること。申請者は所定の申請書に所要の事項を記入の上、綿製品輸出許可申請書を添付すること。綿人繊交織物の中人絹糸の多きもの又は單位を以て取引せらるるもの。

制限の紡織物

綿布

一、灰色、未漂白、白色及漂白綿布

二、染色綿布

三、捺染綿布

四、色物交織綿布

五、綿製サロン

人造絹綿布

六、サロン以外正布

七、サロン

輸入制限紡織物輸入許可證下附申請書樣式

申請書

會社或商店名

營業場所

申請氏名

住所

期日

馬來亞輸入港埠名

類別　綿布

一、灰色、未漂白、白色及漂白布

二、染色布

三、捺染布

四、色物交織布

五、サロン

　人造絹絲布

六、サロン以外の疋布

七、サロン

	碼數	附註

申請者　氏名

住所

期日

東亞經濟調査局　弘報課

營業種別

會社商店名

申請書

綿入捕制綿物綿入皆四種不揃申請書對左

丑

一

一

一

右申請者は總督の權限に屬する紡織物（制限）輸入條例第十四條によつて輸入許可證を受けたる時は上記の期間中該條例第八條の第四項の規定に從ひ許可數量の輸入をなすことを得。

P-11-d

南洋情報

馬來の對外貿易

「統計局五月二十七日發表」

一九三七年四月に於ける馬來の對外貿易

錫及護謨價の漸落にも不拘世界的軍擴の嵐の中に惠まれたる馬來の四月に於ける輸出入貿易總額は一億五千七百七十八萬五千弗の巨額に達した。卽ち輸入六千四百二十萬五千弗、輸出九千三百五十八萬弗にして、實に二千九百三十七萬五千弗の輸出超過となつた。

一九三七年自一月至四月の貿易統計は次の如くである。

次に主要國別輸出入額を示せば

國名	輸出	輸入
	弗	弗
日本國	七、二一〇、〇〇〇	四、一四七、〇〇〇
英國	八、七五四、〇〇〇	九、五八四、〇〇〇
英領各國	一三、八二四、〇〇〇	一二、二三九、〇〇〇

歐洲各國	一五、五七二、〇〇〇	二、八八二、〇〇〇	一二、二三九、〇〇〇
米國	四一、三八七、〇〇〇	一、一四七、〇〇〇	一三、五八四、〇〇〇
蘭領東印度	三、三八四、〇〇〇	二、三九〇、〇〇〇	一四、〇七〇、〇〇〇
其他	三、二八四、〇〇〇	一、二九三、〇〇〇	一、九三六、〇〇〇

右の中對日貿易に就いて見るに、三月に比較して輸出五十一萬七千弗、輸入に於て六十二萬二千弗の各增加を示した。一九三六年四月に比較すれば、輸出四百三十四萬九千弗、輸入百七十一萬二千弗の增加である。

以上

其　　他	一、二四〇、〇〇〇
恩給及退職給與	一、一四〇、〇〇〇
官　　舍	一、〇〇〇、〇〇〇
庁　　費	一、〇〇〇、〇〇〇
合　　計	四、二八〇、〇〇〇

其　　他	一、一四〇、〇〇〇
恩給及退職給與	一、〇〇〇、〇〇〇
官　　舍	一、〇〇〇、〇〇〇
庁　　費	一、〇〇〇、〇〇〇
合　　計	四、一四〇、〇〇〇

右ノ通リ訓令ス

昭和十年十月十日

内閣総理大臣　岡田啓介

内閣書記官長　河原田稼吉

法制局長官　小橋一太

南洋情報

四月中馬來ゴム市況

四月のゴム市況は三月中上昇の一途を辿つたのに反して續落の狀態にあつた。卽ち三月末より四月上旬にかけて四十五仙台から二週日の後には三十五仙台に慘落した。原因は米國の金政策變更說（買上値段引下）の波動、フランス內閣の動搖に基因した各國爲替の變動、普通商品の下落、ゴム原產地の供給增加（事實生產增加）大手筋の買控等によるものと見られてゐる。

その結果市場は恐慌を來たしたが三十五仙台に停止して業界の不安も小康を得て月を越した。而してなつて、三月上昇の平均相場は四〇仙五九四と均相場の四四仙六六に次ぐものであつた。

前月の强氣四五仙八分五を持して四月に入つたが、米國自動車工

場の罷業が全産業に波及の恐れありとのニュース接受、輸出豫想の増加、蘭領の生産激増、英國在庫品の減少等雜多事情の下に思惑筋の手持品投げ出に累されて四三仙、四二仙と下落、米國の金政策變更說が歐洲の經濟界にショックを與へ、その上罷業の未解決、加ふるに海峽殖民地の在荷が減少豫想に反して增加してゐる等に依つて十三日には四十仙となり、ロンドン、ニューヨーク市場共下落を續け、月央には思惑筋と日本の買進みによつて漸く三十九仙台に踏止まつたが、他の普通商品の下落と共にゴムも亦下落を餘儀なくせられ、更にフランス政界の不安が金融市場に影響し依然として不況を續けた。三月より雨多き落葉期に入り生産減少を見越されたるにも不拘三萬八千四百噸の大量生産となり、馬來第一期の輸出許可量より約二千七百噸の增產となり、過剩生產の不安、加ふるに英國在荷四月下旬五萬噸台を割り四八、八二八噸と發表されたが、產地積出の增加から大きな期待は持せられぬものと見られる、尙四月末開催豫

前日の倫敦四五仙八分五を持ち、米國自動車工
場の罷業四週目六六万人の未だ解決のめどもたたず、三月五日の平均相場より四日中平均四〇仙五九と小幅ながら日々下落。而して四月三十五仙台の不安の緩和、果市場お盆を來たしたるもの買持ちされたものと見られる。
噸、普通商品のすべてヒュ崩落の趨勢にあり、内閣の崩壊、仏國の金融變更說（買占め防止）の噂等で三月末より四月五日中平均四十五仙台と二週間の一番安値をつけた。

定の國際ゴム制限委員會は翌五月に延期された。

四月中の新嘉坡市場ゴム相場

月日	買	賣
四月一日	四五、八五	四五、八七
二日	四五、八七	四六、八一
三日	四五、八三	四五、八五
五日	四五、八五	四五、八七
六日	四四、八三	四四、八五
七日	四三、四三	四四、〇〇
八日	四三、〇〇	四三、四一
九日	四二、四一	四二、二一
十日	四二、二一	四二、四三
十二日	四二、二一	四二、四三
十三日	四〇、〇〇	四〇、四一

期間末月初の特に多かつた事は勿論、四月末月初の特に多かつた事は勿論、四月末月初の特に多かつた事は勿論、四月

四月	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十九日	二〇日	二一日	二二日	二三日	二四日	二六日	二七日	二八日	二九日
買	四〇〇	三九四	三七二	三八〇	三七四	三八四	三九八	三八四	四〇八	三九八	四〇三	三九八	三七〇	三七八	三五〇
賣	四〇四	四〇〇	三七四	三八四	三八〇	三八八	四〇一	三九〇	四〇八	三九一	四〇四	三九八	三七四	三七八	三五四

四月	一日	二日	三日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十二日	十三日
買	四五八	四五七	四五八	四五八	四六三	四六三	四六〇	四六二	四六二	四六二	四六〇
賣	四五五	四五八	四五八	四五八	四六三	四六三	四六〇	四六二	四六二	四六二	四六〇

四月中の漢口、南京、蕪湖、九江、福州、廈門の阿波委員會設置に關する正月以來の動向を次の如くである。

四月十四日	二九日	二八日	二七日	二六日	二四日	二三日	二二日	二一日	二〇日	十九日	十六日	十五日	十四日
三三	三五〇〇	三三七八五	三三〇七〇	三三八九七	四〇三七	四〇八七	四〇八三	三八九七	三八八一	三八八三	三八〇〇	三七二一	三七〇〇
四四	三五四一	三三七八七	四〇四一	四〇八一	四〇四一	四〇八一	四〇八五	三八八五	三八八三	三八八五	三八〇〇	三七四三	三八四一
四四	四〇〇〇	三四〇〇〇	四〇八一	三七四一	三七四三	三七〇〇	三七四三	三七四三	三七四三	三七四三	三七四三	三七四三	三七四三

現物平均四〇仙五九四。

備考 四日、十一日、十八日、二十五日休日

附記

國際護謨生産制限委員會は五月二十五日ロンドンに於て開催されたが未だ其の詳報を得ない。然し四月中旬以來下落の一途を辿り五月二十八日遂に三十五仙台を割るの慘落を示した。其の原因は米國の金政策の變更説に據る國際財界の不安、英國の炭鑛勞働者の罷業、歐洲政局の不安、更に最近頻りに傳へられる伊太利の人造護謨の製造等が主要因と見られてゐる。

現下のゴム業界に於て注目すべきは米國の輿論である。商業雜誌「ラバー・エツヂ」の所論に米國政府は米國ゴム製造業者の要求に依り英國政府に對しゴム價が高過ぎると正式に抗議を發したと掲載してゐる。

卽ち

「ゴム價に對して制限計畫の效果如何が米國ゴム製造業者の間に論議されつゝある。而も國際ゴム限産委員會がゴム價のコント

備考	四日、十一日、十八日、二十五日着日		
取扱	平均四〇仙五厘四	三五二一	四月三〇日
		三五四三	

ロールに關して何等施す所ないことを懸念してゐる。」

更に

「本年度第三、第四、四半期の割當（米國の）を委員會が九〇%に決定し生産可能割當の增加につとめてゐるに不拘、世界ストックは日毎に減少の一途を辿りつゝある。ゴム價騰貴に關する産業のトラブルの大部は思惑筋の所爲に歸すべきである。ゴム消費の增加とストックの減少の商機に乘じて之等の思惑筋は市場に於て活潑な取引をなしつゝある。そして生ゴム價格の無理な引上げに依つて彼等が利益を得てることは事實だ。國際限産委員會和蘭代表ヴアン・ゲレレン氏は若し思惑がこれ以上ゴム價を押し上げるならば制限は放棄される可能性があるとの聲明書を發表したことは正しい。」と述べた。

P-2-0

南情第 19 號

南洋情報

昭和拾貳年六月廿日

一　四月中馬來錫市況

四月中の錫市況は護謨と同様今年初頭以來上昇を續け來つて四月初旬一四〇弗台の高値を示して居つたが、第二週前後に至り米國の金政策變更の聲に一三〇弗台となり、月半より漸次下向を續け月末には一二〇弗台を割るの慘落を見るに至つた。その原因は前月來の法外な高値の反動とフランス政局の不安から起つた各國爲替市場の動搖にも禍されたものと云はれる。

護謨と共に制限生産令下にある錫は各生産國に於て生産額を規定されてゐる今日、異常の暴落は錫自身にその要因を求め難きも、外的事情に依つて今後もその市價を左右せられることはあり得る。準戰時體制下に在りて、殊に軍擴の嵐の中に世界各國の消費量は益々增大される一途にある。市價の高昇は當然なるも、世界の政治經濟

| | | |

ベルリス州	三四噸	文那
ケランタン州	一〃	其他ノ各國
トレンガヌ州	三六〃	計
海峽殖民地	八〃	一九三七年三月
計	六、一四九〃	一九三六年四月
一九三七年三月	六、六一〇〃	
一九三六年四月	五、三〇三〃	

四月中輸出入統計

輸出

仕向國	數量（噸）
日本	三七七
英國	七七五
米國	五、二八九
歐州各國	一、一三七

輸入

仕出國	數量（噸）
日本	六六
邏羅	一、八九一
ビルマ	三〇七
佛領印度支那	一四八

白蘭ゼンチ	二八〃	
ミホーラム	五二〃	
緬甸	五、八〇〇噸	
四月中輸出高		
計	一、五二六〃	
白蘭ゼンチ	五六二〃	
墨國	二七五〃	
ホリンナ	二八八〃	
ニヨーク	一四五〃	
關稅同盟	二、二四〇噸	
英帝國	六六一〇〃	

（歐洲各國ハ墨國（調査員會談者）

一九三七年三月中關稅同盟國の各領出量

四月中輸出入統計

輸出

仕向國	數量（噸）
日本	六六
邏羅	一、八九一
ビルマ	三〇七
佛領印度支那	一四八

輸入

仕出國	數量（噸）
日本	三七七
英國	七七五
米國	五、二八九
歐州各國	一、一三七

輸出先國名	一九三七年三月	一九三六年四月	一九三七年三月	一九三六年四月
	輸出量（噸）		輸出入指數	
仏領印度支那	一、四八〇	三〇七	一、八八一	六三
蘭領印度	一、八八一	六六	二、三〇〇	八〇
日本	六六	一、八八一	八	六三
仏國	三四	一一	一五	三六

東亞經濟調查局 弘報課

輸出先國名	一九三七年三月	一九三六年四月	一九三七年三月	一九三六年四月
	輸出量（噸）		輸出入指數	
米國	二八六	五五六	五一三	一〇七
英屬印度	七七	一、一七八	一〇	一六三
日本	三七	九一四〇	五	一二七
仏國	一一	五九〇〇	一	八二
蘭領印度	六	三八	一	五
其他各國	三八	四〇	四	五
計	一九三七年三月	一九三六年四月		
	一、一七八	一、八四六		

附記

國際錫研究會の發表によれば、三月中の錫消費量は一萬九千噸にして、二月の一萬四千六百噸に比して五千噸に近き激増となり、本年一月以降三月に至る第一四半期の合計消費量は前年同期に比して九千四百三十三噸の増加、即ち四萬九千四百三十二噸に達した。

（前年同期の消費量三萬九千九百九十九噸）

尙三月を終末とする一ヶ年間の消費は、